

竜ヶ塚古墳

リゅうがつか
こふん

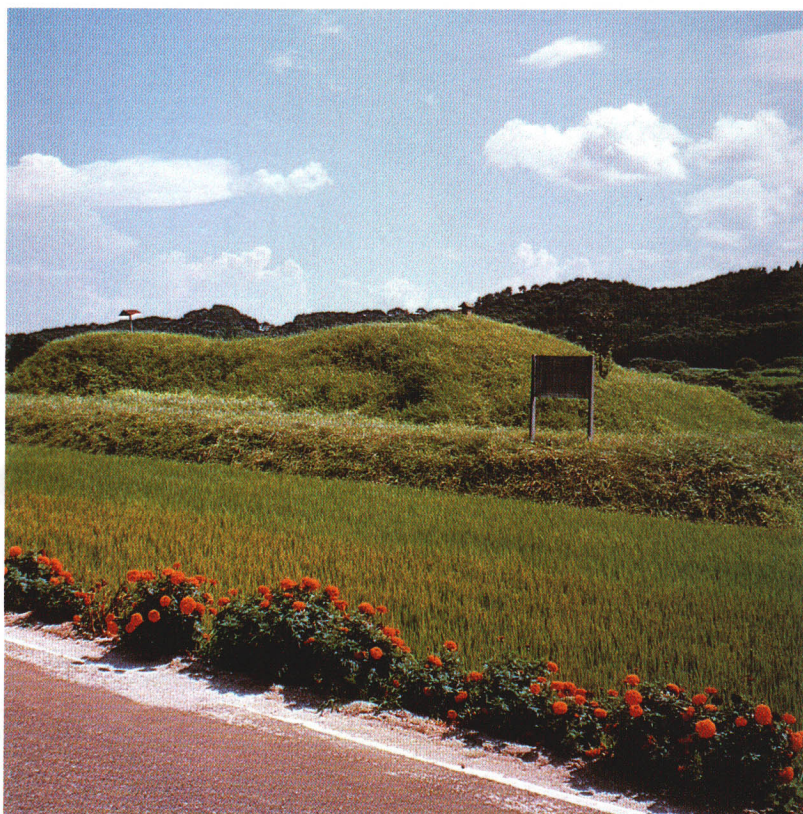
古墳時代、今からおよそ1400年前に作られた前方後円墳。当時、この地域一帯を支配していた石背国造第五世の建磐主命たていわたぬしのみことの墓といわれています。

石背国造の支配していた領域は、元の岩瀬郡（須賀川を含む）の約2倍半にも及んでいたそうです。

古墳の大きさは全長48m、前方部分は西に広がり、その幅は36m、後円部分の直径は24mと

なり、県内で発見された古墳の中では、13番目の大きさ。昭和55年3月には福島県重要文化財に指定されました。

近辺には奈良、平安時代のもと思われる国造遺跡や志古山遺跡などもあり、福島県に現存する唯一の古印「文部龍麻呂私印」（銅製、昭和62年3月福島県重要文化財に指定）も出土し、ヒストリーウォッチングに最適のエリアです。



法燈国師座像

ほうとうこくし
ざざう

法燈国師は奈良の東大寺や和歌山県の高野の山で修行した鎌倉時代の高僧で、中国から日本へ味噌の作り方を伝えた人としても有名です。座像は鎌倉時代末期に作られた高さ80cmの寄木造りの彫像で、国師自身が晩年の自分の姿を彫ったものといわれています。昭和42年には福島県重要文化財に指定されました。

また、昔からこの座像には赤ん坊の夜泣きが治るとい言い伝えがあり、安養寺には村内外から、小さな赤ん坊を連れたファミリーの参拝者が訪れます。

